

## 千里線便り

一八回生 口羽竜 二

### (その一)

#### 阪急京都線・千里線連続立体交差事業について

千里山に住んでいれば通勤通学に千里線を利用するのは今も昔も同じです(所により北急も利用できますが)。電車が淡路駅の手前で長い信号待ちのため、停車するたびにいらさせられたことは誰でも記憶にあるでしょう。これは今もまったく変わりません。しかし大阪市の区画整理事業によって淡路駅とその周辺は大きく変わろうとしています。

ちよつとイメージしてみてください。ときは二〇一八年某月某日、あなたが乗った梅田行き電車の吹田駅を出ました。東海道線の下をのろのろ潜ると線路はすぐ右に急カーブ、次にすぐ左に曲がるあたりから高架が始まり、電車は二五%の急勾配を登ります。そのまま神崎川を渡り、下新庄駅に着きまし

た。ホームの高さは地上約二〇m、マンションならちよつど七階あたりです。下新庄を出るとすぐ下を新幹線の長大な列車が通過して行きます。なんと、千里線は新幹線の上を通るようになったのです。以前のようにつも信号待ちでいらさせられることもなく、JRの貨物線も超えて電車は新淡路駅の「四階ホーム」に滑り込みました。ホーム反対側に京都線の電車も入っているのは以前と同じです。ホームの上屋根は地上三〇m、ビルならほぼ九階に相当する高さです。すぐ下の三階は河原町・北千里方面行のホームです。二階は改札階で一階は広く公共通路に開放されています。京都線と千里線が平面交差から立体交差となったので電車の入線と発車はずいぶんスムーズになりました。高架となった線路はそのまま崇禅寺、柴島まで続きます。

駅の西側(進行方向右側)を見ると、もとの淡路駅の部分は駅前広場と新街区に変わり、反対側は駅前広場を中心に新街区が整然と開けています。新淡路駅は現在の駅の東隣に造られ、その東側一帯では区画整理が行なわれたというわけです。いかが

ですか、ここまでの説明で概略はおわかりいただけ  
たと思います。以下は解説です、飛ばしていただい  
て結構です。

大阪市都市整備局のパンフレットによると、事業  
の概要は次のとおりです。

- 一 事業の名称 淡路駅周辺土地区画整理事業
  - 二 施行者 大阪市
  - 三 施行地区面積 約八、九ヘクタール
  - 四 事業施行期間 平成八年度～平成三二年度
  - 五 総事業費 約三六七億円
  - 六 事業の目的 阪急電鉄京都線・千里線連続  
立体交差事業に併せ、淡路駅周辺の交通の円滑  
化と安全で快適な歩行者空間の確保、並びに、  
防災性の向上、健全な市街地としての整備を図  
るため、駅前広場、幹線道路及び公園等の整備  
を行なう(以下略)。
  - 七 公共施設の整備 (略)
  - 八 関連事業 阪急京都線・千里線連続立体  
交差事業(以下略)
- 事業のための行政手続はいろいろありますが、大

『鉄道ピクトリアル』誌二〇一〇年八月臨時増刊  
号(阪急電鉄特集)にこの事業の概要が紹介されて  
いるので、本文の一部を図版とともに転載紹介する  
ことにします。執筆は阪急電鉄都市交通事業本部技  
術部です。

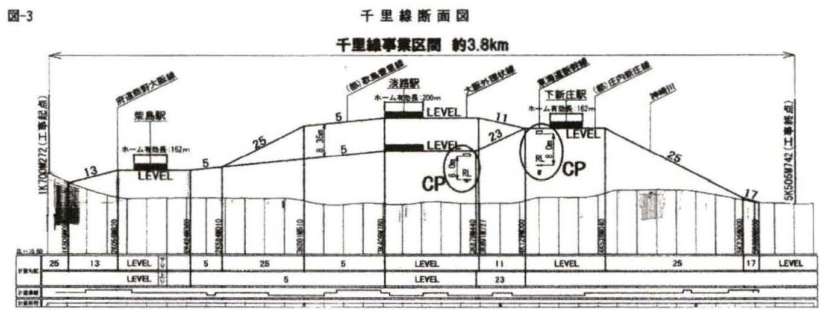
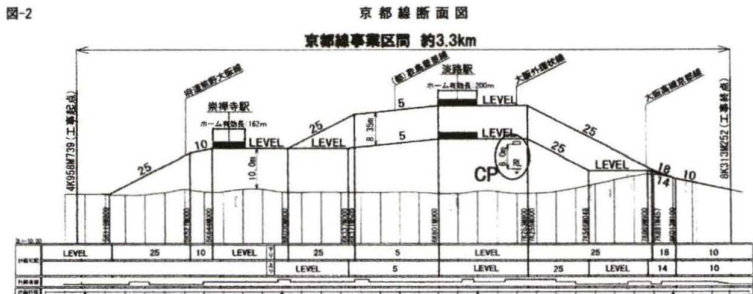
(4) 縦断線形(図2、図3)

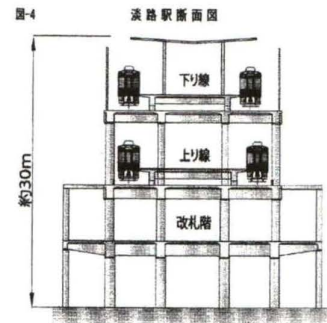
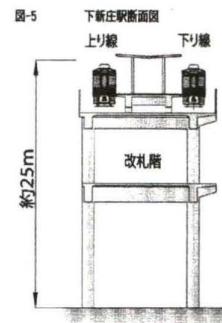
本事業では、当社高架線がJR東海道新幹線・城  
東貨物線の営業線上を通過するため、各社線との  
立体交差箇所が縦断線形のコントロールポイント  
となる。桁下空間の高さについては、各社と協議を  
重ね、JR東海道新幹線8m以上、JR城東貨物線  
6m以上を確保することに決定され、結果として、  
交差箇所直近の淡路駅(図1-4)と下新庄駅(図1-  
5)では駅舎最頂部高さが地上25m以上と非常に  
高い駅舎となった。

また、淡路駅は区画整理事業に伴う面積減歩に  
より、現在の島式2面4線を有する配線確保が不可  
能となるため、上下線別2層島式1面2線(図1-4)  
へ配線変更したことから、淡路駅付近では、上下線  
レベル高さが異なる全国的にも希少な断面線形と  
なる。

まかなスケジュールは次のとおりです。純技術的  
にはもつと短期間にできても立ち退きが必要であり、  
年度予算にも限りがあるので余裕を見こんだスケ  
ジュールになっているものと思われれます。

- 平成四年 土地区画整理事業調査開始
- 平成六年 都市計画決定
- 平成八年 事業計画決定
- 平成九年 「連続立体交差事業」事業認可  
(以後の毎年の行政手続きは略)
- 平成二〇年 鉄道関係工事から着工(立退きも  
既に進行中)
- 平成二九年度 淡路駅立体化、連続高架化完了
- 平成三二年度 全事業完了

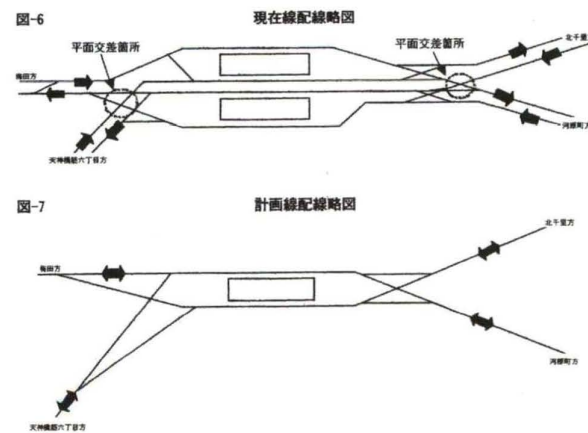




(5) 淡路駅の配線計画

淡路駅は京都線千里線の結節駅であるため、現在一部の列車で反対方向列車との平面交差が生じ、淡路駅発着の際に信号待ち等の制約を受けざるを

得ない配線(図16)となっている。高架化後の淡路駅では前述のとおり、上下線別2層島式1面2線(図17)となり、上下線の平面交差が解消されるため、運転時分短縮による利便性・快適性向上、および列車運行の安全性向上が期待できる。



(その二)

阪急電車の塗装色について

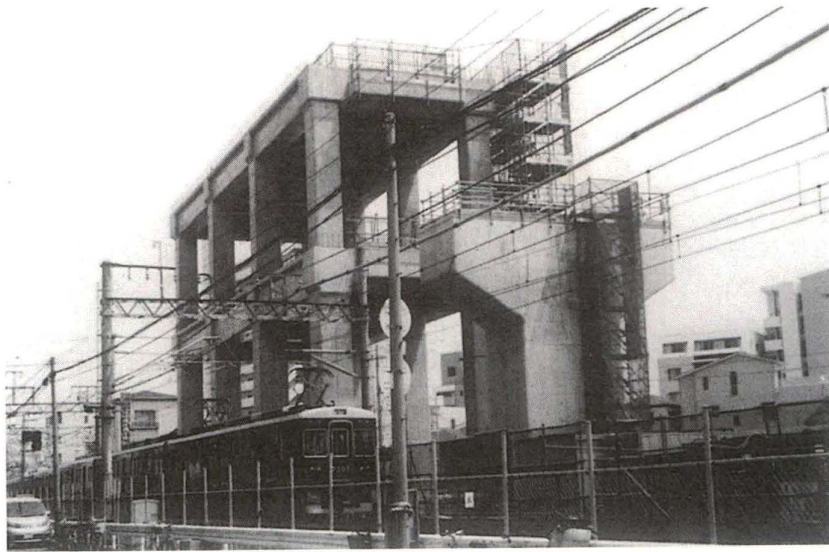
一九八七年、国鉄は分割民営化されJR七社が発足した。その後各社は新型車の開発に際し、国鉄時代にあった「標準化」という制約がなくなったので新型車には独自の斬新なデザインを採用し、併せて派手な塗装デザインを競うようになった。この傾向はその他私鉄にも広がり、電車がカラフルになった。ときあたかもバブル経済の絶頂期で、電車の色彩は時代の空気を反映していた。

こんなとき阪急でも電車の塗装色を見直すという話を何かで読んだ。どんな答えが出てくるのかとひそかに期待したものだ。が何も起こらなかった。そのうちに、社内でも社外でも反対の声が強かったということがわかった。これより早く一九七五年に登場した京都線特急用の六三〇系だけは側面最上部にアイボリーの帯が配されて、特急用であることがそれとなく表現されていた。この手法はその後京都線では七三〇系以後標準塗装となっているが、

マルーンに何かを加えたのはそれだけである。正雀工場では長を務めたこともあるOBの山口益生氏が『鉄道ピクトリアル』誌(二〇一〇年八月)に回想記を寄稿されているが、その中で塗装色について触れておられるので次に引用紹介したい。

マルーンのこと  
寓話めいた話はよく耳にするが、どうして車体の色がマルーンなのかはよくわかっていない。かつては社旗の地色も、規定類集の表紙も、マルーンであり、コーポレートカラーとしての位置づけであった。京都線の前身である新京阪も、開業以来マルーンに近い色であった。親会社の京阪の塗色はたびたび変わっても、何故か新京阪は変らなかつた。不思議である。一時期の特殊な例はあつても、マルーンという栗色で終始一貫してきた。(中略)

ところで、一度色を変えてみたら、との話が阪急のトップから出たことがある。一九九二年、新社章制定の頃である。社員の意識改革の一助としての期待もあつたようだ。ところが具体的に動き出そうとする気配がない。そうこうするうちに、マルーン



淡路駅西寄、先行着工された京都線の高架 2011.04.26 撮影



下新庄駅より淡路方向を見る。新設の高架は前方に見える新幹線高架を跨ぐことになる。 2011.04.26 撮影

堅持のメッセージが、社外のあちこちから、すきま風のように伝わり始め、この話はいつの間にか立ち消えとなった。社内の逡巡した空気に対し、社外の方が、はるかに敏感に反応したように思えた。しかし、考えてみると、折角の惜しいチャンスを逃がしてしまったように思う。とにかく、二、三列車をやってみるべきであった。案外ひょうたんから駒のように、相応しい塗色が見つかったかも知れないし、そうでなくても、マルーンに対する再認識ができた筈である。マルーンにどっぷりと浸かっている間に、あるいはマルーンは変えてはならない色だと思い込んでいた間に、色について考える感性を喪失してしまっているのではないだろうか、チャンスを逸したのは残念なことである。

山口氏はさすがに問題の本質をつかんでおられる。そのとおりだと思う。当時、阪急電鉄のトップは故小林公平氏だった。小林氏は一九八八年に阪急ブレーブスの売却で世間を驚かせた。この決断は小林家の人間だからできたのかもしれない。しかしそういうトップの発案でさえうやむやになるほど

抵抗が強かったということであろう。山口氏の指摘に重なるが、一〇〇年も続けてきた習慣を急に変えるのは容易なことではない筈。意識してもしなくても、マルーンは変えられない、変えるべきではないという、暗黙の了解が社内にも社外にも染みついてるとしたら、それは因習ともいえる。

とはいえマルーンは決して悪い色ではない。その上総数一三〇〇両にも及ぶ阪急の電車は同じデザイン、同じ色で統一されている。しかし大阪市と相互乗り入れの堺筋線ではいつも感じるのだが、この暗い色は地下ではまったく映えない。コーポレートアイデンティティというところが、乗客の立場からいうとさかさか退屈なのだ。たまにはまったく違う塗装デザインの電車が来たら楽しいに違いない。(相互乗り入れの大阪市交の電車が来ると気分も変わる) 阪急は昔から技術面でも営業面でも先進的な企業であるが、ことが電車の色に関してはいま一つ保守的というか、頑固に伝統を守り続けている。二〇一〇年は開業一〇〇周年だが二〇〇周年になってもこれは変わらないのだろうか？